



近畿ブロックのHIV医療体制整備

研究分担者 渡邊 大

(独) 国立病院機構大阪医療センター臨床研究センター
エイズ先端医療研究部 HIV感染制御研究室長

研究要旨

本研究の目的は、近畿ブロックのHIV診療レベルの向上と連携強化、歯科や精神科疾患、救急医療、透析医療、長期療養の診療体制の整備などの課題の解決に資することにある。方法は主に、研修会の企画および実施と近畿ブロックにおける中核拠点病院打ち合わせ会議の開催である。各府県では中核拠点病院が中核となり診療が円滑に行われるようになってきている。その一方で、HIV感染症患者の一般医療への需要があり、拠点病院に加えて、一般の医療施設の参加が必要な状況であることが明らかになった。今後は、長期療養が必要なHIV感染症患者が、安心して療養できるような診療体制の整備が必要と考える。

A. 研究目的

近畿ブロックは滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山の2府4県からなる。全国の都道府県でHIV感染者・AIDS患者の報告数が2番目に多い大阪府が含まれるが、残りの5府県では大阪府ほどの報告件数はないものの、HIV診療における課題は少なくはない。長期療養が必要なHIV感染者が安心して療養できるような診療体制の整備、つまり拠点病院と拠点病院以外の病院との病病連携や病診連携も踏まえての医療体制を整備する必要がある。近畿ブロックのHIV診療レベルの向上と連携強化、歯科や精神科疾患、救急医療、透析医療、長期療養の診療体制の整備などの課題の解決するためには、診療上の種々の課題に伴った研修会の実施が必要である。

B. 研究方法

研修・教育に用いた資料は添付の通りであった。

- あなたに知ってほしいこと
(https://osaka.hosp.go.jp/khac/data/anatani_shitte-hoshii_v13.pdf)
- HIV/AIDSの正しい知識～知ることから始めよう～
(https://www.haart-support.jp/pdf/h23_knowledge_hiv_aids_all.pdf)
- 抗HIV治療ガイドライン (<https://www.haart-support.jp/pdf/guideline2018r2.pdf>)

- Healthy&Sexy (<https://osaka.hosp.go.jp/khac/data/healthy-sexy2014.pdf>)

- あなたとあなたのイイ人へ

(<https://osaka.hosp.go.jp/khac/data/anatato2014.pdf>)
上記のうち、「あなたに知ってほしいこと」と「あなたとあなたのイイ人へ」、「Healthy&Sexy」の3点については当センターホームページからダウンロード可能である。

(倫理面への配慮)

研修・教育に用いた症例呈示では、患者個人が特定されない等の配慮を行った。

C. 研究結果

2018年度の研修会実施実績は添付の通りで、13件であった（開催予定を3件含む）。中核拠点病院および各自治体でも研修会が企画、主催された。講義形式のものが8件、ロールプレイも含まれるものが3件、臨床現場（診察等）も含まれるものが2件であり、講義形式のものが最も多かった。対象となった職種は医師（1件）・看護師（4件）・カウンセラー（1件）・MSW（1件）・歯科医師/歯科衛生士（2件）・多職種（1件）・その他（2件）であり、多くの職種が対象となっていた。カウンセラー連絡会議では物質依存に関する講義ののち、参加し

名称	作成者	研究班	主な使用方法
あなたに知ってほしいこと	大阪医療センター	「HIV感染症の医療体制の整備に関する研究」班	研修会・講習会で配布
HIV/AIDSの正しい知識～知ることから始めよう～	社会福祉法人武蔵野会	「HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究」班	研修会・講習会で配布
抗HIV治療ガイドライン	大阪医療センター	「HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究」班	研修会・講習会で配布
Healthy&Sexy	大阪医療センター	「HIV感染症の医療体制の整備に関する研究」班	研修会・講習会で配布
あなたとあなたのイイ人へ	大阪医療センター	「HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究」班	研修会・講習会で配布

研修・教育に用いた資料

名称	目的	主な対象	参加人数
HIV感染症に関する講習会(滋賀医科大学医学部附属病院)	知識普及	その他医療関係者	46
HIV/AIDS看護研修(第1回 初心者コース)	知識普及	看護師	19
HIV感染症研修会	知識普及	多職種	61
HIV感染症医師一ヶ月実地研修	実習	医師	2
HIV感染症看護師一ヶ月実地研修	実習	看護師	1
近畿ブロック エイズ診療拠点病院ソーシャルワーク研修会	教育・講習	MSW	11
HIV/AIDS看護研修(第2回 初心者コース)	知識普及	看護師	18
近畿ブロック HIV医療におけるカウンセリング研修会	教育・講習	カウンセラー	22
HIV/エイズに関する研修会	知識普及	その他医療関係者	18
HIV/AIDS看護研修(応用コース)	教育・講習	看護師	21
HIV感染症に関する講習会(滋賀医科大学医学部附属病院)	知識普及	その他医療関係者	
歯科における院内感染対策研修会(兵庫医科大学病院)	知識普及	歯科医師、歯科衛生士	
歯科における院内感染対策研修会(兵庫医科大学病院)	知識普及	歯科医師、歯科衛生士	

実施実績

た各施設からの報告がなされ、カウンセリング体制は概ね整っていることが確認された。一方で、カウンセラーの退職やカウンセラーのHIV陽性者へのカウンセリングのハードルの高さ、カウンセリングと検査のニーズによるマンパワーの不足、面接室確保の困難さなどが課題としてあげられた。

情報発信においては、ホームページの運営は重要である。ホームページでは2つの点において改訂を行った。まずは、ホームページのHTTPS化(SSL対応)である。ある種のブラウザがSSLに対応していないサイトにアクセスした時に、警告を表示するようになった。そのような情報を知らない場合、ホームページから資料のダウンロードを躊躇される可能性がある。医療従事者のみならず、患者や支援団体など幅広く情報発信を行うためには必要な対策である。また、昨年度にHTML/CSS/Javascriptを導入し、ホームページのプログラムの全面的書き換えを行った。本年度はこのプログラムを病院のWEBサーバーにアップロードし、公開を行った。

中核拠点病院会議を2018年10月27日に実施した。各中核拠点病院におけるHIV診療の課題において、行政の担当者とともに共通認識を持つ場とした。ブロック拠点・中核拠点病院からは、新規診断感染者数が減ってきている施設が多い(国立大阪・堺・奈良・和歌山)ものの、エイズ患者の占める割

合は高どまりしている施設(国立大阪・大阪市立・京都)があることが報告された。

行政からも新規報告件数やエイズ患者の占める割合について、同様な報告がなされた。梅毒検査の併用、検査会場の変更による利便性の向上、検査を行う曜日の変更、出会い系アプリ(9monsters)への広告により検査件数が増えた可能性があったことも報告された(大阪府・大阪市・堺市など)。総合討論-1においては、薬物依存・外国人・高齢者・透析症例の現状についての議論が行われた。総合討論-2の救済医療については大阪医療センターのHIV地域医療支援室の紹介と、PMDAデータを活用した個別支援の内容、薬害被害者におけるC型肝炎の治療状況についての議論が行われた。PMDAデータを活用した個別支援は、血友病HIV感染者に対する新しく始まった患者支援団体・ACCによる支援であり、患者にどのようにアプローチするか、かかりつけの主治医とどのように連携をとるのかについて模索中であることが議論された。新規のC型肝炎治療薬が登場し、多くの患者さんでHCVの排除に成功した。しかし、ウイルス排除後も肝細胞癌のフォローは必要であり、すべての患者さんに治療が施されたわけではなく、今後も情報発信を続けていく必要があることについて討論した。

D. 考察

今年度も13件の研修を行った。近畿ブロックではこれらの研修会以外にも、多くの研修会を実施していることである。本研究班主催では薬剤師を主な対象とした研修会を行っていないが、それらの研修会は関西臨床カンファレンス（<http://www.kansai-hiv.com/index.html>）が主催で行っている。さらに、関西臨床カンファレンスでは薬剤師向けに加え、若手医師向け研修会（スキルアップセミナー等）・NGOやNPO交流会、カウンセリング部会なども行われている。研究後のアンケートでは概ね良好な評価を得ているが、研修・教育効果の評価方法については、引き続き検討が必要である。

各府県では中核拠点病院が中核となり診療が円滑に行われるようになってきている。その一方で、HIV感染症患者の一般医療への需要があり、拠点病院に加えて、一般の医療施設の参加が必要な状況であることが明らかになった。

E. 結論

近畿ブロックでは、中核拠点病院が各府県のHIV診療の中核を担うようになった。今後もブロック全体で質の高い診療を続けるためには、人材の育成、病院間連携の強化が必要と考えた。歯科診療、精神科疾患、長期療養、透析、救急医療の診療体制の整備も重要な課題である。拠点病院間や行政との連携の強化のみならず、地域全体との密な連携を伴ったHIV診療体制の構築が必要である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

海外

- 1) Hiroki Yagura, Dai Watanabe, Takao Nakauchi, Kosuke Tomishima, Yasuharu Nishida, Munehiro Yoshino, Kunio Yamazaki, Tomoko Uehira and Takuma Shirasaka. ASSOCIATION OF TENOFOVIR LEVEL AND DISCONTINUATION DUE TO IMPAIRED RENAL FUNCTION. HIV drug therapy Glasgow 2018. October 28, 2018. Glasgow.

国内

- 1) 渡邊 大：プレジコビックス®配合錠によって何が変わったか？～発売後1年を経過して～。HIV Web Conference、2018年4月18日
- 2) 渡邊 大：長期管理時代におけるTAFの役割（ランチョンセミナー）。TAFの安全性評価。第92回日本感染症学会総会・学術講演会、岡山、2018年5月31日
- 3) 渡邊 大：HIV感染症学術講演会－アイセントレス®10年の軌跡－。HIV感染者の病態と考えるべき課題－最近の話題、大阪、2018年6月24日
- 4) 渡邊 大：「抗HIV薬の薬物動態、薬剤間相互作用と薬剤耐性」～PK/PD/PGのアプローチからウイルス学的失敗ゼロを目指す～（シンポジウム6）。薬剤耐性HIVの臨床経験と抗HIV薬の薬物動態。第32回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2018年12月3日
- 5) 渡邊 大、蘆田美紗、鈴木佐知子、松本絵梨奈、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨。抗HIV療法中のHIV感染者における細胞内HIV-1-DNA量の測定法間の差異に関する検討。第32回近畿エイズ研究会学術集会、大阪、2018年6月2日
- 6) 中内崇夫、矢倉裕輝、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨。HIV感染者における高尿酸血症の関連因子に関する検討。第67回日本感染症学会東日本地方会学術集会、東京、2018年10月25日
- 7) 中内崇夫、富島公介、矢倉裕輝、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、宮部貴識、佐光留美、上平朝子、山崎邦夫、白阪琢磨。初回治療におけるエルビテグラビル/コビシタット/エムトリシタビン/テノホビルアラフェナミドフマル酸塩配合錠の治療成績。第72回国立病院総合医学会、神戸、2018年11月9-10日
- 8) 来住知美、渡邊 大、北島平太、寺前晃介、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、西田恭治、上平朝子、三田英治、白阪琢磨。大阪のエイズ診療ブロック拠点病院におけるA型急性肝炎の流行。第88回日本感染症学会西日本地方会学術集会、鹿児島、2018年11月17日
- 9) 廣田和之、山本雄大、渡邊 大、北島平太、寺前晃介、来住知美、上地隆史、伊熊素子、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨。溶血性貧血を契機に多中心性キャッスルマン病と診断されたHIV感染者の一例。第32回日本エイズ学会学術集会・総会。2018年12月2日。大阪。
- 10) 加藤賢嗣、吉原雄二郎、渡邊 大、福本真司、和田恵子、安尾利彦、白阪琢磨、村井俊哉。

- HIV関連神経認知障害 (HAND) と脳構造。第32回日本エイズ学会学術集会・総会。2018年12月3日。大阪。
- 11) 小島洋子、川畑拓也、森 治代、木村和嗣、渡邊 大、大森亮介、駒野 淳、福武勝幸。職域での健診機会を利用した健診センター・人間ドックにおけるHIV検査の現状調査。第32回日本エイズ学会学術集会・総会、2018年12月2日、大阪
- 12) 上地隆史、渡邊 大、北島平太、寺前晃介、来住知美、廣田和之、伊熊素子、西田恭治、上平朝子、三田英治、白阪琢磨。細胞性免疫能が低下したHIV-1感染者におけるLDHと β -Dグルカンのニューモシスチス肺炎の診断能評価。第32回日本エイズ学会学術集会・総会、2018年12月3日、大阪
- 13) 来住知美、渡邊 大、北島平太、寺前晃介、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、西田恭治、下司有加、松岡恭子、東 政美、中濱智子、上平朝子、三田英治、白阪琢磨。自発検査で判明した新規HIV感染者の受検動機。第32回日本エイズ学会学術集会・総会、2018年12月3日、大阪
- 14) 横幕能行、今橋真弓、伊藤俊広、山本政弘、岡慎一、豊嶋崇徳、茂呂 寛、渡邊珠代、渡邊大、藤井輝久。エイズ診療の拠点病院の診療機能評価と課題の検討。第32回日本エイズ学会学術集会・総会、2018年12月4日、大阪
- 15) 岡崎玲子、蜂谷敦子、佐藤かおり、豊嶋崇徳、佐々木悟、伊藤俊広、林田庸総、岡 慎一、瀧永博之、古賀道子、長島真美、貞升健志、近藤真規子、椎野禎一郎、須藤弘二、加藤真吾、谷口俊文、猪狩英俊、寒川 整、石ヶ坪良明、吉野友祐、太田康男、茂呂 寛、渡邊珠代、松田昌和、重見 麗、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊大、小島洋子、森 治代、藤井輝久、高田清式、南 留美、山本政弘、松下修三、健山正男、藤田次郎、杉浦 互、吉村和久、菊地正。国内新規HIV/AIDS診断症例における薬剤耐性HIV-1の動向。第32回日本エイズ学会学術集会・総会、2018年12月4日、大阪
- 16) 渡邊 大、上平朝子、矢倉裕輝、富島公介、中内崇夫、北島平太、寺前晃介、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、西田恭治、白阪琢磨。TDFからTAFに変更後の腎機能検査値の推移に対する併用キードラッグの影響に関する検討。第32回日本エイズ学会学術集会・総会、2018年12月3日、大阪
- 17) 上平朝子、渡邊 大、矢倉裕輝、富島公介、中内崇夫、北島平太、寺前晃介、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、西田恭治、白阪琢磨。当院の2剤レジメンの現状。第32回日本エイズ学会学術集会・総会、2018年12月3日、大阪
- 18) 富島公介、中内崇夫、矢倉裕輝、北島平太、寺前晃介、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨。ラルテグラビル/エトラビリン/ダルナビル/リトナビルレジメンの長期投与症例についての検討。第32回日本エイズ学会学術集会・総会、2018年12月3日、大阪
- 19) 寺前晃介、北島平太、来住知美、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨。ST合剤で薬疹、ペンタミジンでアナフィラキシー様症状を起こした難治性ニューモシスチス肺炎の一例。第32回日本エイズ学会学術集会・総会、2018年12月3日、大阪
- 20) 山本雄大、伊熊素子、渡邊 大、湯川理己、来住知美、廣田和之、上地隆史、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨。ニューモシスチス肺炎に肺ノカルジア症を合併した後天性免疫不全症候群の1例。第32回日本エイズ学会学術集会・総会、2018年12月3日、大阪
- 21) 北島平太、廣田和之、寺前晃介、来住知美、伊熊素子、上地隆史、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨。抗HIV療法後に肝臓及び脾臓の病変増悪を認めた肺結核の一例。第32回日本エイズ学会学術集会・総会、2018年12月3日、大阪

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし